

連体修飾構造の一類型について

ー 日本語と中国語の対照の視点からー

横川澄枝

要旨

日本語と中国語の連体修飾構造について、修飾部と被修飾部との関係に焦点をあてた分類を試みているが、その中で、日本語における連体修飾に関する先行研究の中に、＜相対性の名詞＞とよばれる一群の名詞があることに着目した。中国語において、このような名詞を被修飾語とする連体修飾構造の一類型が存在するのか、また、存在するなら、日本語における修飾部と被修飾部との関係とは差異があるのか、という問題意識に基づき、実際の用例をもとに考察した。

＜相対性の名詞＞の中で、序数的な時間を表す「翌日」などに対応する中国語の“第二天”など、因果関係を表す「結果」などに対応する中国語の“结果”などを被修飾語とする連体修飾構造については、実際の用例を見出し、さらに、“结果”などを被修飾語とする連体修飾構造については、修飾部と被修飾部との関係が＜相対型＞であるもののほかに、＜同定型＞も存在することが分かった。

【キーワード】連体修飾構造 相対性の名詞 相対型 同定型 補完関係

0 はじめに

日本語と中国語の対照を試みる一つの切り口として連体修飾構造に焦点をあて、連体修飾構造の談話文脈における機能などについて考察するために、修飾部と被修飾部との関係に基づいた分類の方法に関心を抱いている。そのため、日本語・中国語それぞれの文字言語による作品中の用例を比較し、日本語と中国語の連体修飾構造において共通する特徴・相違点を考察している。連体修飾構造の比較は日中対照研究の中でも行われ、中国語になりにくい修飾節の例も報告されており、(注1) それとも関連するが、本稿は日・中それぞれの連体修飾構造における修飾部と被修飾部との関係を分類する中で見出した問題点の一つについて報告をしたいと考える。具体的には、日本語における先行研究で指

摘されている〈相対性〉名詞をとる修飾構造が、中国語においても存在すること、および、その特徴について報告する。

連体修飾部には名詞をはじめ、いろいろな品詞が入り得るが、本稿では、修飾部に動詞をとり込んだ構造を主たる対象とする。これは、筆者が連体修飾節における動詞のふるまい方に関心があることによるものである。

1 先行研究から

1-1 日本語の連体修飾節の分類

本稿でとった日本語の連体修飾節の分類は以下の先行研究に基づいている。

宮島達夫他 (1995) では動詞を自らの述語とする連体修飾節を、まず〈内の関係〉、〈外の関係〉に分類する。

宮 (1) 〈内の関係〉 「運動場で楽しそうに遊んでいる子供達」

宮 (2) 〈外の関係〉 「ケネディが暗殺された事件」

(1) は主名詞が連体修飾節の述語の依存・従属成分として意味解釈できるもの、(2) は主名詞が連体修飾節の依存・従属成分としては意味解釈できないものである。(2) はさらに下位のカテゴリーとして次のように分類される。

(2) - α 〈相対型〉連体修飾節が主名詞の基準として機能しているもの
「戦争が終わった翌日」

- β 〈同定型〉連体修飾節が表している叙述内容と主名詞が同定関係にあるもの

「火災が多数発生したとの報告」

上の分類のうち、本稿では (2) - α 〈相対型〉の修飾構造に焦点をあてる。

1-2 中国語の連体修飾節の分類

本稿は、中国語における連体修飾構造の分類についての先行研究の中では基本的に朱徳熙 (1983) による分類に基づく。

朱 (1) 开车的人 (車を運転する人), 他写的诗 (彼が書いた詩)

朱 (2) 开车的技术 (運転する技術), 请假的理由 (休暇を取る理由)

(1) は修飾部の表す意味内容が被修飾部を指すが、(2) は修飾部の表す意味内容は被修飾部を指さない。

古川裕 (1989) は朱徳熙によるこの分類に基づき、2つの修飾構造の比較をおこない、特に (2) の「修飾部の表す意味内容が被修飾部を指さない連体修

飾構造」について考察を加えている。

朱(1) 开车的人 のタイプ

VP (動詞フレーズ) 的 ——— N (名詞)

开大卡车 的 司机 (大型トラックを運転する運転手)

VPとNとの間には意味上ある種の格関係あるいは“及物性”(シと動作)関係がある。

朱(2) 开车的技术 のタイプ

VP 的 ——— N

开大卡车 的 技术 (大型トラックを運転する技術)

VPとNとの間には意味上の補充関係(Nの具体的内容を補充説明する)がある。

古川は用例の分析を通じて上のように分類し、朱(2)「補充関係の修飾構造」の被修飾語になりうる語には語義的制限があるとして、次のような語義類型を提示している。

1. 思考内容 2. 言論内容 3. 感知内容 4. 属性内容
5. 状況内容 6. 抽象内容 7. 時空内容

古川の用いた連体修飾節を修飾部と被修飾部との関係から分類するという観点では、日本語における寺村(1992)の分類を参考になっている。

「さんまを焼く男」 : (开车の人) 車を運転する男

「さんまを焼く匂い」 : (开车的技术) 車を運転する技術

寺村は「さんまを焼く匂い」タイプの被修飾語の類型を分類し、「発話・思考の名詞」「コトを表す名詞」「感覚の名詞」「相対性の名詞」としている。古川が挙げた例において、VPとNの関わりかたはNの具体的内容をVPが直接補充説明するもののみであるが、本稿では古川分類では触れていない、Nの具体的内容をVPが直接にはなく間接的に説明するというタイプ——〈相対性名詞〉を被修飾語としてとるタイプ——をとりあげ、考察を試みた。

1-3 相対性名詞

寺村(1992)の分類による日本語における〈相対性名詞〉というのは「翌日」「結果」「うしろ」「おつり」「のこり」等の一群の名詞である。この型の名詞を修飾する節は内容説明が当該の名詞自身ではなく、その名詞と相対的な関係にある名詞に向けられるという点が特徴的であるとされる。(注2)

(a) 戦争が終わった翌日、洋子は生まれた。 宮島の挙げた例

(戦争结束的第二天, 洋子出生了。)

(a') 戦争が終わった日、洋子は生まれた。

(戦争结束的那天, 洋子出生了。)

(a) では被修飾語「翌日」との関係において「戦争が終わった」という修飾節で特定されるのは「翌日」ではない。言いかえれば「戦争が終わった」で説明されるのは「翌日」ではなく、その前の日である「 θ (仮に θ とする: 基準時)」であり、「 θ 」の次の日が被修飾語「翌日」である。これに対して (a') では連体修飾節「戦争が終わった」は被修飾語「日」を直接説明している。

(a) 戦争が終わった … (日) … 翌日 戦争が終わった (日の) 翌日

θ

(a') 戦争が終わった — 日 戦争が終わった (トコロノ) 日

中国語においても「相対性の名詞」を被修飾語として連体修飾構造を作れるものとして、先に挙げた代表的な相対性の名詞の中から「翌年」「結果」という2つの名詞を選んだ。

2 用例と考察

2・1 “第二天” (翌日) などを被修飾語としてとるタイプ

(a') のタイプは古川分類の「7. 時空内容」のバリエーションとしてとらえられる

①文化革命刚结束不久的 1978 和 1979 这两年, 他就写出了这篇文章。 李

(文化革命が終わって間がない 1978 年と 1979 年の 2 年間)

例①のようにこのタイプは連体修飾部が被修飾部を直接説明している。次に

(a) のタイプを見ていく。

(a) のタイプ

②在向老宗讲述初恋故事后的第七天, 继强放下了厂里的业务, 请老宗吃酒。李

(初恋のことを語ってから 7 日目)

③可是在好婆嫁过来的第二年, 她的男人死了。 李

(嫁いで来た翌年)

④一九六九年, 是我们的小院里栽上葡萄的第三年。 王

(ぶどうを植えて 3 年目)

⑤蚕房早已收拾好了, 窝种的第二天, 老通宝拿一个大蒜头… 语言

(温めて蚕の孵化を促した翌日)

⑥打古巴队的前一天晚上，我去她的房间，见郎平正打电话把杨锡兰叫到自己屋子里。 李 (キューバチームを破る前の晩)

⑦天安门事件的前一年，他与几位朋友…冒死写出了《中国向何去?》等论文。
李 (天安門事件の前の年)

これらの例では連体修飾部が直接説明している—古川によれば具体的内容を補充説明している—のは当該の被修飾語ではなく、ある基準時「 θ 」であり、基準時「 θ 」を起点に起算して「翌年」なり「三年目」なり「一日前」なりという被修飾語を説明するという構造が成り立っている。

(a') 修飾部 ——— 被修飾部
(a) 修飾部 ……… (θ) ……… 被修飾部
基準時

刘宁生 (1995) は“偏正” (修飾と修飾節) 構造の中心語と修飾語の関係を認知の“目的物” (Figure) “参照物” (Ground) という関係においてとらえ直し、中国語の語順は“参照物先于目的物”であると確認している。

修飾部 ——— 被修飾語
Ground Figure

修飾部が直接説明する基準時と、被修飾語である相対的な時間との関係は認知心理学で言う補完関係によって接続することも解釈できる。

このような、補完関係による修飾関係の成立には被修飾語となっている語の意味特性が大きく関与している。すなわち、相対性の名詞の類は他者との相対関係の上に意味が成り立つという特性を持つ。同様に時間を表す名詞ではあっても、“1989 年”はそれだけである時間を特定することができるが、“第二年”はそれのみではある時間を特定することができない。“第二年”を用いるためには、それがいつから起算した場合の“第二年”であるのかという基準時を示さなければならない。(注3)

ある時間を特定するための時間の基準としては⑦“天安门事件的前一年”のように特定の名詞をもって規定することもできる。同様の例としては、

六四的第二年 (六四の翌年)

六四：1989年6月4日の天安門事件をさす

芦沟桥事变的第二天 (盧溝橋事件の翌日)

唐山地震的第二年 (唐山地震の翌年)

春节的第二天 (春節—旧暦1月1日—の翌日)

などが挙げられる。ある時間を特定するための時間の基準として名詞を用いたこれらの連体修飾構造は中国語として成立はする。しかし、修飾部を名詞ではなく、動詞構造にしたほうがよりよいという。すなわち、

芦沟桥事变发生的第二天 (盧溝橋事件が起きた翌日)

发生唐山地震(后)的第二天 (唐山地震が発生した翌年)

过春节的第二天 (旧正月＝旧暦1月1日－を過ぎた翌日)

とした方がより自然であるという。

“六四”はそれ自体がああ歴史的事件(デキゴト)を指す名詞であり、“芦沟桥事变”、“唐山地震”、“春节”も同様にデキゴトを表す。つまり、時間軸上のある時間はあるデキゴトをもって特定することができ、またあるデキゴトを基準時として相対的なある時間を表すことができる。上の②から⑥の例文で見たように、動詞を用いた構造をもって、あるいはデキゴトを表す名詞を用いた修飾節で、基準時を示すことができる。

⑧老通宝记得只有两次是同样的，一次就是他成家的那年，又一次是阿四出世的那年。 语言

(一回は彼が所帯を持ったその年、もう一回は阿四が生まれた年である)

⑨他走的那天，她流了那么多泪，这辈子的泪都没流过那么多。 落

(彼が去って行ったその日)

⑧⑨の例は⑩の表す基準時と被修飾語の表す時とが一致している。すなわち基準時から隔たりゼロとして解釈できる。

以上挙げたように、中国語においても相対型修飾節のタイプが存在することが分かる。なぜこのような修飾の仕方をとるのかという逆の面から見ると、修飾部で呈示されたデキゴト―ある情報を卓立して、その時点との時間的関連に立って話題を展開していくという表現上の必要性によるとも考えられる。

⑩我们两家关系很好，多年来跟一家人一样，可谁想到会出这样的事呢？出事后第二天，也就是晓彤被抓起来的第二天，晓彤到我家来了。 落

(事件が起こった翌日…晓彤が捕まった翌日)

⑩の例は小説中の例だが、基準時として修飾節で呈示しているデキゴト―事件を中心に時間の推移を述べて話題を展開している。この問題については、談話文脈における表層上の結束性に関する機能という側面から改めて考えてみたい。

以上から、日本語の連体修飾節の〈相対型〉に類する修飾構造として、中国語においても、一つのタイプとして、まず被修飾語が時間に関する語であり、か

つ序数的な名詞である場合に成立しうるといえよう。しかし、日本語と中国語を比較してみると、基準時を示しうる品詞の範囲は日本語のほうが制約が少ないと言えるかもしれない。たとえば、例は多くはないかもしれないが、ある特定のコンテキストのもとでなら、

- (b) 野分があつてやんだあした(翌くる朝) …という意味で
- (b) 野分のあしたこそをかしけれ 徒然草 19段
- (c) 『たけくらべ』を著した翌年 …という意味で
- (c) 一葉の没したのは『たけくらべ』の翌年、明治二十九年十二月二十三日である。 CD-ROM 版 『新潮文庫明治の文豪』
中の『たけくらべ』の解説

「野分のあした」というのはもちろんデキゴトとしての「野分が吹き荒れた翌朝」のこと、『たけくらべ』の翌年は『たけくらべ』を著した翌年の意だが、日本語では「野分」「たけくらべ」といったデキゴト性のない語(含意としてはデキゴトを暗示するとも言えるかもしれない)で時間を特定し、基準時を示す場合がある。しかし、中国語においては、名詞のみをもって基準時間を示すにはデキゴト性のある名詞でないと難しいという。これらの例を中国語で表現するなら、例えば動詞構造にして、次のように表現される。

- (b) 刮大风的第二天早上 (大風が吹いた翌日の朝)
- (b) * 大风的第二天早上
- (c) 写了『……』的第二天 (『……』を書いた翌年)
- (c) * 『……』的第二天

先に挙げた“芦沟桥事变”、“唐山地震”の例もそうだが、中国語ではデキゴト的な意味内容を持つ名詞か、または、動詞をとりこんだ構造によってデキゴトを示し基準時とすることができる。これは中国語の一つの特徴とも言えよう。

2・2 “結果”(結果)などを被修飾語としてとるタイプ

- (d) たゆまず努力した結果、大学に合格した。 作例
努力学习的结果，终于考上了大学。

この例で修飾部に説明されている「たゆまず努力した」は実際の結果そのものではない。「結果」とは実際は「大学に合格した」ことである。修飾部に示されているのは「結果」に対する「原因」あるいは結果を生じるに至ったプロセス・もとになるものである。修飾部でプロセス・原因を示すことによって、そ

の終着点あるいは相対的位置に存在する「結果」の説明となっている。

修飾部

被修飾部

たゆまず努力した

結果

大学に合格した

プロセス・原因

実際の結果

(結果を生み出すもととなるもの)

この修飾のタイプは中国語の連体修飾節においても見られるものである。

⑪ 优良的学习成绩，是长期刻苦学习的结果。 同

(優秀な学業成績は長年にわたって刻苦勉強した結果である。)

⑫ 有时一串葡萄放的时间长一些，又有外伤，便会发酵，发酵的结果常常是酒香满，这是我亲口尝过的。 王

(発酵した結果酒の香りが満ちることが多い)

⑬ 这是南非实施其法西斯主义法律的结果。 人民

(ファシズム的な法律を実施した結果である。)

⑭ 艺术个性是艺术家对生活对艺术以及对自己发现的结果。 人民

(芸術の個性とは、芸術家が生活や芸術に、さらには自身に対して自己表現をした結果である。)

⑮ 它是几年来资产阶级自由化思潮泛滥，而且我们的一些同志旗帜不鲜明、态度不坚决的结果。 人民

(我々のうちの一部の同志が主張がはっきりしておらず、態度が確固としていないことによる結果である。)

⑯ 后来仲密家里果然有了许多小鸡，满院飞跑，啄完了铺地锦的嫩叶，大约也许这劝告的结果了。 鲁

(おそらくはニワトリを飼うようにと勧めた結果なのだ。)

⑰ 今年我们能获得这样大的丰收，都是同志们的辛勤劳动的结果。 同

(このような豊作は同志たちが艱難辛苦に耐えて労働した結果である。)

これらはいずれも修飾部でプロセス・原因となるものを示すタイプである。また“結果”と〈相対〉関係にある“原因”についてもこれを被修飾部とする修飾構造が成り立つ。

⑱ 这还不是我忽然改了行的唯一的原因。 老

(このことは私が突然職を変えてしまった唯一の原因ではない。)

この点については、古川も“結果”が被修飾名詞となる場合に、修飾部で説明

されている内容と“結果”という概念とが一致しないという特殊な状況があるとして言及している。が、この状況は相対性という概念を用いて解釈することができ、修飾節が被修飾節を特定するに際して直接規定するか、間接的に規定するかという手続き上の違いであると考えられる。

以上のように“結果”を被修飾部とする連体修飾節には相対型タイプが存在する。さらに、“結果”が被修飾名詞となる場合にはこれ以外のタイプも存在する。

①⑨ 从第一次，第三次和第四次防卫计划…都导致了扩大军备的结果，… 人民
(第一次から…第四次防衛計画は軍備拡大という結果を招いた。)

②⑩ 1月25号的西德大选以人们普遍预料的结果宣告结束。 人民

(西ドイツ選挙は人々のおおかたの予測した結果をもって幕切れを告げた)

いずれも修飾部の示す内容は「結果」そのものである。広義では古川のいう補充関係の修飾構造と見ることができる。“結果”を被修飾語とするこの構造は修飾語と被修飾語との関係から見ると、さらに少なくとも次の3つのタイプに下位分類できる。

V/V P的N “結果”

(1) 被修飾語“結果”について補充説明する… 例②⑩

(2) 被修飾語“結果”の具体的内容を示す… 例①⑨

(3) 被修飾語“結果”に対するプロセス・原因を示す… 例①⑪

(2)のタイプの修飾節は日本語においては「～トイウ結果」「～トノ結果」という形を取ることで、外形上区別されるが、中国語の場合はスローガンなどを示すのにスローガンそのものを“”の中に入れるという場合以外は、外形上のマーカーがない(注4)ため、解釈は文脈によるところが多く、また(1)と(3)の解釈の別も文脈によるところが多いと思われる。

3 まとめと今後の課題

古川分類による補充関係を表す修飾構造の被修飾語となる名詞のタイプの分類に、以下の事実を付け加えることができる。

(I) 日本語の連体修飾構造における〈相対型〉にあたる連体修飾構造のタイプが中国語の場合にも一部認められる。

(II) その1つは時間の序数的な関係を表す“前一天”“第二年”“第二天”などの名詞群を被修飾語とするタイプである。修飾部が説明するのは当該の名詞ではなく、ある基準時であり、この基準時から起算しての時間の序列を表す。

基準時を示すにはデキゴト的な意味内容をもつ名詞によることがあるが、しかし動詞（あるいは動詞フレーズ）によってデキゴト規定をするほうが多いようである。

日本語の「結果」などを被修飾名詞としてとるタイプは、修飾部においてその結果を生み出す原因を述べることにより、相対的に対称の位置にある「結果」を説明している。このタイプは中国語の連体修飾節においても見られる。さらに“結果”を被修飾語とする修飾節には相対的修飾構造ではないものも存在する。

ここでは3つに下位分類したが、他のタイプがあるか否かについては今後の課題とする。

本研究の発展として、中国語で連体修飾構造が作りにくいタイプ—たとえば「昨日食べた残り」はそのまま直訳的に“昨天吃的剩下部分”（昨日食べた—残りの部分？）と表現することはできず、“吃了剩下的饭”（食べて残した—ご飯）あるいは“剩饭”（残りご飯）という表現になるという—について、中国語の動詞と日本語の動詞との結果含意性の違いに関連するのではないかと考えたものの、深い考察にまで至らなかった。これらのタイプについても考察したうえで、修飾構造が談話文脈においてはたす機能などにまで結びつけて考察を広げていきたいと考える。

（注1）山田琉璃（1995）「日本語と中国語の連体修飾語について」『日語学习与研究』4期、徐昌華（1983）「中日両語の連体修飾構造の対応関係への一試論」『人文学報』160号などに中国語では連体修飾構造になりにくい修飾構造の例が挙げられている。また、張威（1998）『結果可能表現の研究』くろしお出版 には日本語の連体修飾関係における「短絡」として「頭ノヨクナル本」などの例を挙げ、このような「連体修飾関係における短絡の構文は中国語には存在せず、それは日本語表現に見られる特異性の一つであるといえそうである」としている。

（注2）寺村は「相対性」の名詞と、その相対概念の補充（「逆補充」）を説明し、「結果」を被修飾語とする構文についての、ここで取り上げた現象について言及し、「日本語の一つの特徴といってもよいかもしれない」としている。

（注3）仁田義雄（1997）『日本語文法研究序説』くろしお出版 ではなく絶対的時名詞、〈発話時を基準時とする相対的時名詞〉、〈ある時を基準時とする

相対的時名詞」という区分をしている。この区分に立てば、「翌日」は「ある時を基準時とする相対的時名詞」に区分される。

(注4) 古川の挙げた例の中に“結果”を被修飾名詞とする例ではないが、「“年轻人业务还不熟”的回答」(“若い人たちはまだ業務に習熟していない”という回答)という例や擬音語の部分を“”に入れている例などがある。

《 参考文献 》

- 寺村秀夫 (1992/1993) 『寺村秀夫論文集』 I・II くろしお出版
宮島達夫・仁田義雄編 (1995) 『日本語類義表現の文法』 下 くろしお出版
朱徳熙 (1995) 『文法講義』 白帝社
古川裕 (1989) 「“的”字结构及其所能修饰的名词」『语言教学与研究』
刘宁生 (1995) 「汉语偏正结构认知基础及其在语序类型学上的意义」『中国语文』
朱一色編 (1990) 『现代汉语术语词典』 华语教学出版社
陈高春主编 (1989) 『实用汉语语法大辞典』 职工教育出版社
益岡隆志 (1994) 「名詞修飾節の接続形式—内容節を中心に—」『日本語の名詞修飾表現』 くろしお出版
山梨正明 (1995) 『認知文法論』 ひつじ書房

《 例文出典 》 (以下の例文のうち文が長いので一部改変したものがある)

- | | |
|----|---------------------------|
| 李 | 李向农 (1997) 『现代汉语时点时段研究』 |
| 王 | 王蒙 (1990) 『王蒙代表作』 |
| 語 | 人民教育出版社 (1983) 『语言』 |
| 浩 | 浩然『笑话』 |
| 老 | 老舍『我这一辈子』 |
| 人民 | 人民日报 CD-ROM 版 1987-1989 年 |
| 魯 | 鲁迅『鸭的喜剧』 |
| 同 | 游智仁等編『现代汉语同义词辨析』 宁夏人民出版社 |
| 落 | 魏雅华『落红』 新疆人民出版社 |

(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻)